第 17 回（平成 28 年度）
神戸大学大学院国際文化学研究科公開講座
ひょうご講座 2016

受講生募集要項

神戸大学

移動からみる現代世界

●どなたでも無料で受講できます。ただし、定員（200 人）に達し次第、受付を終了いたします。
●申し込み方法は裏面または研究科ホームページをご覧ください。http://web.cla.kobe-u.ac.jp/

1. 講座の目的と概要

私たちは今日、国境を越える人・モノ・情報の移動の高まりに起因する様々な社会の変化や、新たに生起する政治的・社会的課題に接するようになっています。本年度の公開講座は、「移動からみる現代世界」と題して、日本、アメリカ、ヨーロッパなどの事例をもとに、移民や難民の波に向き合う国々はどのような対応を迫られているのか、移動する人々は移動先においてどのような問題に直面し、どのようにしてその問題を乗り越えようとしているのか、移動先の国家や社会との関係において人々はどのようにしてアイデンティティ形成を行なっているのか、そして、映像メディアの普及や通信技術の革新は人々の行動のあり方をどのように変容させているのか、などといった諸点について 4 つの講義から多角的に考えていきます。

10 月 8 日には、まず、移民と映画産業の大国アメリカを事例として、20 世紀前半にアメリカに渡った日系移民と映画の関係を軸に、移民と国家の問題を検討します。次に、中東・北アフリカからの難民の受入をめぐる課題に直面しているヨーロッパを事例として、EU（欧州連合）が進める移民・難民政策が抱える諸問題を国際関係論の視点から明らかにしていきます。

10 月 15 日には、日本に目を転じ、主として 1980 年代以降に来日・定着した人々（ニュー・カマー）が日本で生活を送る上で抱えている問題とその解決策について展望します。最後に、携帯電話を通じたインターネット利用の急激な普及の世界的状況を明らかにすると共に、その問題点を検討します。

2. 期間及び日程

平成 28 年 10 月 8 日（土）、10 月 15 日（土）の 2 日

詳しくは裏面の「講義日程・題目及び講師」をご覧ください。

3. 受講対象者

一般社会人、学生（中学生以上）

4. 募集人員

200 人（先着順受付）

5. 講習料

無料

6. 受講申込方法

（1）受付期間：**平成 28 年 9 月 1 日（木）から 9 月 30 日（金）まで**

ただし、定員に達し次第、受付を終了します。

申込期間外の受付はできません。上記期間内にお申し込み下さい。

（2）申込方法：同封の「受講申込書」に必要事項を記入し、下記に郵送、FAX または E-mail で送信してください。「受講申込書」は研究科ホームページ（http://web.cla.kobe-u.ac.jp/）よりダウンロードすることもできます。

〒 657 － 8501　神戸市灘区鶴甲 1 － 2 － 1

神戸大学大学院国際文化学研究科総務係

FAX 番号 078 － 803 － 7509

e-mail　gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

（3）問い合わせ先：

神戸大学大学院国際文化学研究科総務係

電話番号 078 － 803 － 7515

e-mail　gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

7. 公開講座会場

国際文化学研究科・国際文化学部

B 棟 110 教室（1 階）

8. 公開講座会場の案内図

●交通機関

阪急六甲駅、JR 六甲道駅、阪神御影駅より、

神戸市バス 16 系統「六甲ケーブル下」

行きに乗車、「神大国際文化学部前」下車

（注）⑯は、神戸市バス16系統六甲ケーブル下行

㊱は、36系統鶴甲（つるかぶと）団地行

http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/turukabuto-dai1.html

講義日程・題目及び講師

日程・時間			講義題目・講師	講義内容
10月8日（土曜日）	13：10～13：20　開講式			
	第1回	13:20 ～ 14:50	「映画と移民」 ■日本学コース准教授 **板倉　史明**	20世紀は映画と移民の世紀であった。近代的な国民国家体制が完成する19世紀後半に技術的／政治的な起源をもつこれらふたつの現象に共通するのは、国家のナショナリズムを補完する役割を担ってきたと同時に、国民国家の境界を常に越えてゆくトランスナショナルな運動を内包していた点である。映画と移民の関係が20世紀を通じてもっともダイナミックに浮かび上がった国のひとつはアメリカ合衆国である。建国から今日までつねに国外からの移民の流入によって成り立ってきたアメリカは、第一次世界大戦以降、ハリウッドという世界最強の映画産業を有し、多民族社会のなかで映画作品を製作・上映するとともに、世界を市場として国際的な配給網を構築してきた。では、アメリカにおいて映画と移民はいかなる関係を結んできたのだろうか。あるいは、映画は移民たちのアイデンティティの構築と変容にいかなる影響をあたえてきたのだろうか。本講義では、20世紀初頭から太平洋戦争時のアメリカで生きた日本人移民（およびその子孫である日系アメリカ人）が、アメリカの地で映画というメディアとどのように関わったのかという点を、彼ら／彼女らのアイデンティティの構築と変容という観点から考察する。
	第2回	15:10 ～ 16:40	「EU をめぐる人の移動のガバナンス」 ■国際関係・比較政治論コース教授 **坂井　一成**	2010年12月のチュニジアを発端とするアラブの春以降に生じた南地中海地域の政治社会変動の結果、北アフリカからEU（欧州連合）への移民・難民の大量流入が発生した。定員を大幅に超える渡航者を乗せた小型の密航船が地中海で転覆して多くの死者を出す事故が多発し、一方でEU側の玄関口になるイタリアやギリシャにたどりついた人々の数は甚大で、受入能力を大きくこえるものであり、移住者が住居も得られず街中に溢れる状況は、人道的見地からも受入側に社会不安が広まるという点からも、きわめて深刻である。EUでは、1990年代後半から加盟国間での移民・難民政策の調整を進め、非EU圏からの移住者の受入体制の構築に努めてきているが、このありかたにも大きな課題が突きつけられてしまっている。本講義では、EUがこの事態にどのように対応しているのかを確認し、広くグローバル社会との関係のなかで、人の移動をめぐるガバナンス（管理・協力体制）がどのような状況に置かれているのかについて、国際関係論・EU政治研究の観点から検証する。
10月15日（土曜日）	第3回	13:20 ～ 14:50	「現代日本への外国人の流入と定着」 ■アジア・太平洋文化論コース教授 **貞好　康志**	2015年に短期旅行者を含め日本を訪れた外国人の数が2千万人を上回り、話題になった。他方、就業や結婚などで長期の滞在資格を持ち、日本で暮らしている外国人は2百万人を超えている。その中には、在日コリアンや中国系人（いわゆる華僑）に代表される「オールド・カマー」（古くから来ている人々）もいるが、1980年代のバブル経済期以降に来日・定着した「ニュー・カマー」（新しく来た人々）の方がいまや実数でも上回っている。彼・彼女らは人生の舞台に選んだ日本への適応の努力を続けているが、言葉や宗教・文化の壁、子どもの教育、生活の基盤となる経済条件など、さまざまな困難に直面している人も少なくない。国の政策や社会の多数派（いわゆる「普通の日本人」）の意識も、グローバル化に伴って進行する日本社会の「多民族化」「多文化化」の実態に追いついていない。本講義では、外国出自の人々の日本への流入・定着の近年の実態や問題のありかを歴史を踏まえて考察し、今後を展望する。
	第4回	15:10 ～ 16:40	「モバイルコンピューティングを利用した人々の動態分析」 ■情報コミュニケーションコース教授 **村尾　元**	世界における携帯電話の普及率は2015年に95%を越え、先進国では120%、新興国でも92%という高いものとなっている。そのうちおよそ40%がスマートフォンユーザである。すでにインターネットアクセスの60%以上は携帯電話/スマホからというデータもあり、インターネットを語るうえでモバイルコンピューティングは避けて通れない。現在、膨大なモバイル通信データを利用した人々の動態分析が試みられており、訪日外国人が訪れる観光スポットの分析など、そのビジネスへの活用も進められている。一方で、このような技術を利用することで、特定の個人を追跡することも可能となっており、犯罪の防止といった明るい側面とともに、ストーキングのような犯罪への利用といった暗い側面も注目されている。本講義では、世界におけるモバイルネットワーキングを中心としたインターネットの利用環境の現状と、これを利用した人々の動態分析手法を、例とともに紹介する。
	16：40～16：50　閉講式			